

平成29年

第10回彦根市子ども議会会議録

11 月
(11月18日)

彦 根 市 議 会

平成 2 9 年 1 1 月

彦根市子ども議会会議録総目次

11月18日（土）

| | |
|--|----|
| 議事日程 | 1 |
| 本日の会議に付した事件 | 1 |
| 会議に出席した議員 | 1 |
| 会議に欠席した議員 | 1 |
| 議場に出席した事務局職員 | 1 |
| 会議に出席した説明員 | 2 |
| 開会 | 3 |
| 開議 | 3 |
| 会議録署名議員の指名（1番 鹿乗杏樹さん（高宮小学校）、2番 大西花音さん（城北小学校）、3番 嶋本美優さん（稲枝西小学校）、4番 馬場美月さん（城南小学校）、5番 林風花さん（金城小学校）、6番 中村悟さん（城西小学校）） | 3 |
| 会期の決定 | 3 |
| 彦根市政について（一般質問） | 3 |
| 1番 鹿乗杏樹さん（高宮小学校） 質問 | 4 |
| 彦根市全体の小学校でエコ活動を行うために | 4 |
| 小林市民環境部長 答弁 | 4 |
| 2番 大西花音さん（城北小学校） 質問 | 5 |
| 彦根城築城410年祭をみんなで祝えるように | 5 |
| 辰巳企画振興部参事 答弁 | 5 |
| 3番 嶋本美優さん（稲枝西小学校） 質問 | 6 |
| 稲枝駅近くのふみきり工事について | 6 |
| 山本都市建設部長 答弁 | 6 |
| 4番 馬場美月さん（城南小学校） 質問 | 7 |
| びわ湖の外来魚に対する取組について | 7 |
| 小林市民環境部長 答弁 | 7 |
| 5番 林風花さん（金城小学校） 質問 | 8 |
| ヒアリやヤマカガシ等の危険な生物の対策について | 8 |
| 小林市民環境部長 答弁 | 9 |
| 6番 中村悟さん（城西小学校） 質問 | 9 |
| 小学生にかっこいいヘルメットを配ろう | 9 |
| 善住教育長 答弁 | 10 |

| | | |
|--------------------------------|------------|----|
| 7番 原卓也さん（鳥居本小学校） | 質問 | 10 |
| 鳥居本の自然をさらに生かした公園を | | 10 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 11 |
| 8番 吹田萌望愛さん（佐和山小学校） | 質問 | 11 |
| 駅東をみんなが集える場所へ | | 11 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 12 |
| 9番 北川七虹さん（城北小学校） | 質問 | 13 |
| 防犯灯が点灯する時間を季節によって変え、よりよいまちづくりを | | 13 |
| 馬場企画振興部長 | 答弁 | 13 |
| 10番 七里清夏さん（旭森小学校） | 質問 | 14 |
| 彦根城を世界遺産に | | 14 |
| 山根副市長 | 答弁 | 15 |
| 11番 永田智之さん（城東小学校） | 質問 | 16 |
| 路線バスや乗合タクシーなどのサービスの積極的な活用について | | 16 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 16 |
| 12番 目片舞さん（若葉小学校） | 質問 | 17 |
| みんなが快適に過ごせる彦根市をつくるために | | 17 |
| 牧野福祉保健部長 | 答弁 | 17 |
| 13番 田中大翔さん（佐和山小学校） | 質問 | 18 |
| 命を守る信号の設置を | | 18 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 18 |
| 14番 荒川陽彩さん（城南小学校） | 質問 | 19 |
| みんなが喜ぶ給食にするために | | 19 |
| 善住教育長 | 答弁 | 19 |
| 15番 田中葉月さん（亀山小学校） | 質問 | 20 |
| 彦根市の洪水対策について | | 20 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 20 |
| 15番 田中葉月さん（亀山小学校） | 再質問 | 21 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 21 |
| 16番 和田直也さん（城東小学校） | 質問 | 21 |
| カラスやのらねこの来ないきれいな町に | | 21 |
| 小林市民環境部長 | 答弁 | 22 |
| 17番 廣田愛結さん（高宮小学校） | 質問 | 23 |
| 私たちの通学路にガードレールの設置を | | 23 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 23 |
| 18番 柴谷茉佑さん（稲枝北小学校） | 質問 | 24 |

| | | |
|-------------------------------|-----------------|-----------|
| 彦根梨を広めるために | | 24 |
| 黒澤産業部長 | 答弁 | 24 |
| 19番 蒲池一義さん（河瀬小学校） | 質問 | 25 |
| ビワイチを応援し、湖岸に立ち寄ってもらうために | | 25 |
| 大久保市長 | 答弁 | 25 |
| 20番 疋田蓮さん（城陽小学校） | 質問 | 26 |
| 須越町にみんなが安心して遊べる公園を | | 26 |
| 山本都市建設部長 | 答弁 | 27 |
| 21番 田原涼羽さん（若葉小学校） | 質問 | 28 |
| 彦根市全体をGreen Cityに | | 28 |
| 川嶋副市長 | 答弁 | 28 |
| 22番 西野美織さん（稲枝北小学校） | 質問 | 29 |
| 稲枝に図書館を | | 29 |
| 西川教育部参事 | 答弁 | 29 |
| 23番 堀内拓人さん（平田小学校） | 質問 | 30 |
| 彦根市の地場産業について | | 30 |
| 黒澤産業部長 | 答弁 | 30 |
| 24番 林咲耶さん（稲枝東小学校） | 質問 | 31 |
| 彦根に温水プールをつくってほしい | | 31 |
| 安居教育部長 | 答弁 | 32 |
| 閉会 | | 32 |

平成29年11月18日

第10回彦根市子ども議会会議録

【 第 1 日 】

第10回彦根市子ども議会会議録

平成29年11月18日（土曜日）

議 事 日 程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

会議に出席した議員（24名）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1番 鹿 乘 杏 樹 さん（高宮小学校） | 13番 田 中 大 翔 さん（佐和山小学校） |
| 2番 大 西 花 音 さん（城北小学校） | 14番 荒 川 陽 彩 さん（城南小学校） |
| 3番 嶋 本 美 優 さん（稲枝西小学校） | 15番 田 中 葉 月 さん（亀山小学校） |
| 4番 馬 場 美 月 さん（城南小学校） | 16番 和 田 直 也 さん（城東小学校） |
| 5番 林 風 花 さん（金城小学校） | 17番 廣 田 愛 結 さん（高宮小学校） |
| 6番 中 村 悟 さん（城西小学校） | 18番 柴 谷 茉 佑 さん（稲枝北小学校） |
| 7番 原 卓 也 さん（鳥居本小学校） | 19番 蒲 池 一 義 さん（河瀬小学校） |
| 8番 吹 田 萌望愛 さん（佐和山小学校） | 20番 疋 田 蓮 さん（城陽小学校） |
| 9番 北 川 七 虹 さん（城北小学校） | 21番 田 原 涼 羽 さん（若葉小学校） |
| 10番 七 里 清 夏 さん（旭森小学校） | 22番 西 野 美 織 さん（稲枝北小学校） |
| 11番 永 田 智 之 さん（城東小学校） | 23番 堀 内 拓 人 さん（平田小学校） |
| 12番 目 片 舞 さん（若葉小学校） | 24番 林 咲 耶 さん（稲枝東小学校） |

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事 務 局 長 岸 田 道 幸
- 事 務 局 次 長 山 口 和 子
- 書 記 中 村 友 規

会議に出席した説明員

| | | | |
|----------|----------|---------|-----------|
| 市長 | 大久保 貴 さん | 上下水道部長 | 山口 昌宏 さん |
| 副市長 | 山根 裕子 さん | 会計管理者 | 和気 豊文 さん |
| 副市長 | 川嶋 恒紹 さん | 病院事業管理者 | 金子 隆昭 さん |
| 企画振興部長 | 馬場 完之 さん | 病院事務局長 | 西山 武 さん |
| 企画振興部参事 | 辰巳 清 さん | 消防 長 | 高田 忠見 さん |
| 総務部長 | 犬井 義夫 さん | 教育 長 | 善住 喜太郎 さん |
| 総務部危機管理監 | 高田 秀樹 さん | 教育部 長 | 安居 庄二 さん |
| 市民環境部長 | 小林 重秀 さん | 教育部 参事 | 西川 利樹 さん |
| 福祉保健部長 | 牧野 正 さん | 文化財部長 | 馬場 孝雄 さん |
| 子ども未来部長 | 高橋 嘉子 さん | 企画振興部次長 | 野崎 孝志 さん |
| 産業部長 | 黒澤 茂樹 さん | 財政課 長 | 杉本 弘之 さん |
| 都市建設部長 | 山本 茂春 さん | 秘書政策課長 | 疋田 元伯 さん |

○議会事務局長（岸田道幸さん） 本日は、第10回子ども議会にお越しいただき、ありがとうございます。

ご来場の皆様方をお願いいたします。子ども議会の取材のため、報道機関の方々が議場内に入られ撮影をされますので、ご了承くださいますようお願いいたします。保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いいたします。なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

それでは、第1グループ議長、林咲耶さん、議長席へお願いいたします。

午前9時15分開会

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 最初に議長をします稲枝東小学校、林咲耶です。よろしく申し上げます。

ただいまから第10回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に1番鹿乗杏樹さん、2番大西花音さん、3番嶋本美優さん、4番馬場美月さん、5番林風花さん、6番中村悟さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

24名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番鹿乗杏樹さん、2番大西花音さん、3番嶋本美優さん、4番馬場美月さん、5番林風花さん、6番中村悟さん、7番原卓也さん、8番吹田萌望愛さんの順番とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番鹿乗杏樹さん。鹿乗さん。

〔1 番（鹿乗杏樹さん）登壇〕

○1 番（鹿乗杏樹さん） 「彦根市全体の小学校でエコ活動を行うために」

私は、彦根市全体の小学校でエコキャップやプルトップ集めをする活動を提案します。

私は、テレビや新聞などで高齢化社会が年々進んでいることを耳にし、このままだとお年寄りの方や介護を必要とされる方がどんどん増えていくことを心配しています。私たちができる身近な活動を考えたとき、ペットボトルキャップやプルトップを集めて車椅子を贈ることができることを知りました。

現在、高宮小学校ではエコキャップを集める活動と呼びかけています。しかし、全校的な取り組みだけでは協力してくれる人が少ない現状です。彦根市全体の小学校で活動すると、体の不自由な方々や車椅子を必要とされる施設へ贈ることができ、より多くの方に喜んでいただいて、この彦根市がよりよくなると思います。さらに、この活動を「エコ活動ポスター」として彦根市の小学校やみんなが集まる公共施設に貼ることでより効果が出ると考えます。

なので、私は、彦根市全体の小学校でエコキャップやプルトップ集めをする活動を提案します。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） 鹿乗さんのご提案は、回収したエコキャップやプルトップをリサイクル業者に買い取ってもらって、得られた収益で車椅子やワクチンなどを贈ったり、福祉や環境を守る活動に寄附する活動や、障害のある方や高齢者の働く場をつくり出すなど、社会の多くの面で役立てられることとなります。また、リサイクルすることによる環境にもよい取り組みと言えます。

エコキャップの回収は、ペットボトルはリサイクルされるのにキャップはごみとなることに疑問を感じた高校生が回収を始めたのが始まりとのこと。一方、プルトップの回収は、昔、缶ジュースなどの容器は飲むときにプルトップが缶から外れる構造で、外したプルトップが道路や公園などにポイ捨てされ、転んだときや子どもがさわって危険だということから、環境美化と地域の安全、資源を大切にすることを目的として始められました。今は、ふたをあけてもプルトップが外れない缶となり、プルトップを外さずに空き缶ごとリサイクルされるようになったことから、リサイクルする上ではわざわざプルトップを外すことにはいろいろな意見があるようです。

しかし、今回のご提案は、リサイクルということだけでなく、人を助けるための活動であるということは事実で、大切なこととっております。

現在、エコキャップやプルトップの回収は、彦根市内にある幾つかの事業所や作業所などで行われています。また、彦根市内の17の小学校では、エコキャップの回収は鹿乗さんの通う高宮小学校を初め12校で実施され、プルトップの回収は6校で実施されています。

このように、全ての小学校ではありませんが、既に多くの小学校で取り組み、中には

環境学習としての実施や、回収量と使われ方を校内の掲示板等でみんなに知らせている学校もありますので、ご提案のとおり、こういった福祉や環境に貢献する取り組みをエコ活動ポスターやパネル展示などによって多くの人に知ってもらい、活動の輪を広げていければと考えています。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 鹿乗さん。

〔1番（鹿乗杏樹さん）登壇〕

○1番（鹿乗杏樹さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 2番大西花音さん。大西さん。

〔2番（大西花音さん）登壇〕

○2番（大西花音さん） 「彦根城築城410年祭をみんなで祝えるように」

ことは彦根城築城410年祭の年です。彦根城が築城して410年たったかと思うと、歴史の重みを感じます。彦根市民の大人も子どももみんなが祝えるような企画を提案します。

調べてみると、410年祭では開国記念館にNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」で使用された道具や衣装が展示されるなど、さまざまな催しが開かれています。これに加えて次の二つの企画を考えました。

まず、一つ目は、2回目のブルーインパルス飛行です。彦根城から少し遠い方でも、大人も子どもも見れて楽しめると思います。6月に行われたときも、ダイナミックで感動しました。

二つ目は、みんなで一つの絵をつくるということです。パーツをつなぎ合わせて大きな一つの絵にしたいです。例えば彦根城の絵を大きく描いたり、「築城410年」という文字を大きく表現してもいいと思います。自分もこの祭りに参加しているという気持ちになれると思います。

ただ、410年祭はことしの12月までと聞いています。だから、10年後の420年祭で活用してもらえると嬉しいです。

彦根城築城の祭りをみんなで祝えるように、この二つを提案します。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 企画振興部参事。

○企画振興部参事（辰巳 清さん） 大西さんからいただきました国宝・彦根城築城410年祭をさらに盛り上げるためのご質問にお答えいたします。

ことは、国宝の彦根城天守が完成してから410年目を迎えることや、大河ドラマ「おんな城主直虎」が放映されることから、3月18日から12月10日までの268日間にわたり、国宝・彦根城築城410年祭を開催しており、大西さんからご紹介いただきましたように、開国記念館では大河ドラマ関連の展示を行うとともに、彦根城内の重要文化財に指定されている西の丸三重櫓では、バーチャルリアリティ映像で彦根城の築城や城下町の成り立ちなどについて説明する「プレイバック彦根城下町シアター」の放映と、現存天守12城の模型を一堂に会した「全国のお城模型展」を開催しております。

また、大西さんも調べてくださったとは思いますが、天秤櫓ではタッチパネルモニターで井伊家伝来の名宝、お宝などを紹介する特別展に続きまして、7月からは映画「関ヶ原」の特別展を開催、9月からは410年祭のプロモーションムービーの制作にかかわったアーティストによるアート展を開催しております。

そのほかにも記念狂言会や演劇公演、宝探しイベントなど、さまざまな取り組みを展開してまいりましたが、6月4日に航空自衛隊ブルーインパルス展示飛行に合わせて開催いたしました「彦根眺城フェス」は、大西さんもおっしゃいましたように、幅広い年代の方々が遠くからでも楽しめたことや、約300名のスタッフがかかわって実施したことで、市民や来訪者、お客様だけでなく、参加いただいた皆様からも大変好評をいただきました。

したがって、大西さんからご提案いただいたブルーインパルス展示飛行のように、広いエリアから見られるイベントや、彦根城の絵を描いたり、人文字をつくる事業のように多くの参加者にかかわっていただけるようなイベントは、彦根を盛り上げる意味でも大変効果が大きいと思いますので、おっしゃるような、この410年祭期間中の実施は難しいですけれども、今後のイベント企画に大いに参考とさせていただきたいと思います。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 大西さん。

〔2番（大西花音さん）登壇〕

○2番（大西花音さん） これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 3番嶋本美優さん。嶋本さん。

〔3番（嶋本美優さん）登壇〕

○3番（嶋本美優さん） 「稲枝駅近くのふみきり工事について」

私は、稲枝駅近くの踏切工事について、早く終わらせてほしいと思います。

今、工事現場の周りが白い壁のようなもので囲まれています。そのため、踏切を渡ってからの道がよく見えません。私が通っている塾が踏切の近くにあるのですが、塾へ行くときに曲がり角で車とぶつかりそうになり、怖い経験をしたことがあります。

また、踏切付近でよく渋滞が発生します。工事が早く終わると渋滞が減り、車での移動がスムーズになります。

私のお父さんは10年以上前に県外から引っ越してきたのですが、滋賀県に来た当時とあまり変わってないと聞きます。10年もあれば工事は終わると思います。

稲枝に住んでいる人の安心・安全を守るために、私は稲枝駅付近の踏切工事の完成を早めてほしいと思います。踏切工事の現状はどうなっているのでしょうか、教えてください。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 稲枝駅近くの踏切工事は、線路の下を道路が通る立体交差とするもので、渋滞の原因となる踏切をなくし、安全で快適に通行できるようにするために工事を行っています。

この工事は滋賀県が実施しており、平成13年に始まり、既に15年以上がたっていますが、新しく道路をつくったり広げたりするには、道路に必要となる土地を譲っていただく必要

があります。土地を譲っていただく方々の協力が不可欠となっています。その協力が得られて初めて工事ができるようになりますが、ご協力をいただくには道路の必要性などを十分に説明し、理解していただかなければなりません。このことから、その話し合いにはどうしても時間がかかります。

また、安全面のことや使いやすさも十分に考えなければなりませんので、地域の皆さん、鉄道会社や警察など、いろいろな方面の人との話し合いが必要となってきます。こういった話し合いに時間がかかってしまうことが工事の遅れている原因となっています。

しかし、今まではこういった原因によって工事が遅れていましたが、いろいろな方との話し合いも進んできており、順調に進めば平成32年の完成を予定していると県から聞いています。この工事が終わると、踏切でとまることなくスムーズに移動することができるようになりますので、これからも皆さんのご協力を得て、少しでも早く工事が進むよう、引き続き滋賀県にお願いをしていきます。

なお、嶋本さんご指摘の白い壁は、工事中の環境対策のために設置されていますが、これにより見通しが悪く危険になっているところもありますので、より安全なものとなるよう、嶋本さんの経験を滋賀県に伝え、工夫いただけるようお願いをしております。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 嶋本さん。

〔3番（嶋本美優さん）登壇〕

○3番（嶋本美優さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 4番馬場美月さん。馬場さん。

〔4番（馬場美月さん）登壇〕

○4番（馬場美月さん） 「びわ湖の外来魚に対する取組について」

私は、琵琶湖の外来魚の取り組みについて質問します。私は、1学期にびわ湖の漁獲量が年々少なくなっていることに興味を持って、その原因を調べました。私たちは、琵琶湖の魚を食べているのはブラックバスだと思って駆除しています。しかし、インターネットで調べてみると、ニゴロブナの減少にはブラックバスだけではなくブルーギルが原因になっているということがわかりました。

私は、みんなにそのことを教えるべきだと思います。例えばチラシでの呼びかけやうみのご学習でのブルーギルの影響について学ぶことが大切だと思います。

私は、魚の命のことを考えると、ブラックバスばかり駆除しないほうがよいと思います。また、ブラックバスを駆除している人にこのことを伝えることも大切だと思います。

そこで、彦根市ではブルーギルなどの外来魚に対する取り組みはどのようなことをされているのか教えてください。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） 一般的にブラックバスと呼ばれているオオクチバスやコクチバスは、琵琶湖における外来魚の代表格として知られていますが、ブルーギルや

チャンネルキャットフィッシュを含む多くの外来魚が既に生息し、在来の魚やエビを食べるなど、生態系に大きな影響を与えています。

琵琶湖における外来魚の問題は、滋賀県全体にかかわるので、県が対策を行っているところです。その対策を県にお聞きしたところ、まず、漁師さんの団体である漁業協同組合に依頼して、ブルーギルを含む外来魚を捕まえて駆除をされています。また、釣った外来魚を琵琶湖に戻さないとする「琵琶湖ルール」を県の条例としてつくり、外来魚回収ボックスや回収いけすを各地に設置して外来魚を回収するなど、琵琶湖を利用する全ての人に協力を求めて外来魚を減らす取り組みを進められています。

彦根市では、彦根港や神上沼などに外来魚回収ボックスを12カ所、そして、柳川漁港に回収いけすを1カ所設置し、県の対策事業に協力しています。また、学校や放課後児童クラブなどで環境学習講座を実施し、外来魚の特性や生態などを正しく理解し関心を持っていただけるよう取り組んでいるところです。

外来魚は持ち込まれた琵琶湖などで急激に繁殖したもので、その結果として、もともと琵琶湖に生息する生き物の数が減ってきています。その減ってしまった生き物を守ることも大切なことで、増え過ぎたブルーギルなどの外来魚を駆除し、琵琶湖に生息する生き物のバランスをとることは必要です。

これらの取り組みには、馬場さんが感じておられる「生き物の命の大切さ」を忘れず、「正しく知って、正しく学ぶ」ことが大切です。また、馬場さんのご意見のように、みんなに「正しく伝える」ということは、私たちと琵琶湖などに生きる生き物に必要な環境を守る重要な活動と思っています。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 馬場さん。

〔4番（馬場美月さん）登壇〕

○4番（馬場美月さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 5番林風花さん。林さん。

〔5番（林 風花さん）登壇〕

○5番（林 風花さん） 「ヒアリやヤマカガシ等の危険な生物の対策について」

私は、ヒアリやヤマカガシなどの危険な生物の対策についてお聞きします。

ことしの5月下旬から6月下旬にかけて日本各地で相次いでヒアリが発見されました。特に兵庫県や大阪府、愛知県でも発見されており、滋賀県にいつ侵入してもおかしくない状態です。また、7月30日には毒ヘビ「ヤマカガシ」が兵庫県伊丹市で発見され、小学5年生の男児が被害に遭い、一時意識不明となったそうです。

そこで、侵入するおそれが高いと言われるヒアリについての提案が二つあります。一つ目は、ヒアリにかまれた部分に貼ると自然に回復する絆創膏の開発です。二つ目は、ロボット掃除機のような、ヒアリを吸い取って中で処理する機械の開発です。どちらも、それらに関連する会社や彦根市内の大学と協力して開発できるのではないかと考えます。そう

すれば、彦根市民だけでなく日本や世界の人々の役に立ちますし、彦根市が世界から注目されて有名になるのではないのでしょうか。

ヒアリ等、危険な生物の対策について、彦根市はどのようにお考えか、ぜひご意見をお聞きしたいです。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） ヒアリについては、ことし5月の発見以来、全国的に注目を集めていて、10月12日には京都府でも発見されました。しかし、国外から運ばれてきた貨物コンテナの内部で確認されたもので、もともと日本に生息しているわけではない外来種で、私たちの生活やもともと日本に生息する生き物を初めとする自然環境に大きな影響を与えることがないように、国外から日本への侵入を防ぎ、日本で増えていかないように、国の環境省を初め関係機関が協力し、駆除や調査などを実施して防いでいるところです。彦根市としても、もし市内で見つかった場合には、国や県とともに駆除や調査などの対策を実施することになっています。

一方、ヤマカガシは、日本に古くから生息する在来種で、カエルなどを主な餌とするため、県内でも山地から琵琶湖周辺にかけての水田などの水辺に生息しています。しかし、県の調査によると、土地の開発や水田の減少などにより、その数が減ってきているということです。このヤマカガシのように、日本でもともと生きていた生き物については、毒があるからといって人間の勝手な都合で駆除することはありません。

私たちの身近には、古くからさまざまな生き物がいて、その生き物などによってつくり出された豊かな自然環境と共存し、また、その恵みによって私たちの生活が支えられてきました。彦根市としては、この豊かな自然環境を市民の皆さんと一緒に守っていきけるよう、出前講座やイベントなどの機会を通じて伝えてきたところです。林さんにも自然や生き物のことを知っていただき、自然環境を守っていただきたいと思います。

また、林さんがご提案いただいた「ヒアリに刺されたときの特効薬となる絆創膏」や「ヒアリを処理するロボットの開発」は、とてもよいアイデアと思います。もし、市内にある大学などの研究機関と共同で開発に取り組む企業などがあれば、彦根市としても協力していきたいと思います。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 林さん。

〔5番（林 風花さん）登壇〕

○5番（林 風花さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 6番中村悟さん。中村さん。

〔6番（中村 悟さん）登壇、資料掲示〕

○6番（中村 悟さん） 「小学生にかっこいいヘルメットを配ろう」

僕は、小学生にかっこいいヘルメットを配ることを提案します。

僕は友達と自転車に乗って遊びに行くときに、1人だけヘルメットをかぶっていたこと

がありました。市内で見かける外国人はヘルメットをかぶって自転車に乗っているけれど、日本人はほとんどかぶっていません。でも、僕は交通安全のためにヘルメットをかぶった方がいいと思います。

自転車事故の死亡原因を調べてみると、約60%は頭部のけがだそうです。ヘルメットをかぶっていれば命を守れたのではないかと思います。

みんながヘルメットをかぶらないのは、「かっこ悪い」「面倒」「暑い」、女の子は髪が崩れるなどの理由が挙げられます。ヘルメット着用は、最初こそ恥ずかしいかもしれませんが、1人がかぶれば1人、また1人とヘルメットを使う人が増えると思います。だから、「自転車に乗るときにはヘルメットをかぶるのが当たり前」という彦根市をつくり上げればいいと思います。そのために、みんながかぶりたくなるような通気性がよくてかっこいいヘルメットを配ることを提案します。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 中村さんが言われるように、自転車利用時にヘルメットをかぶることは自分の命を守るためにとても大切なことです。道路交通法でも、「13歳未満の小児が自転車を運転する際に保護者はヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」となっています。

自転車の交通事故を防止し、安全に自転車を利用することができるよう、保護者の方が自分の子どもに積極的にヘルメットを着用させることとなっているわけです。そのため、ヘルメットは保護者の方が子どものことを考えて準備していただくものと考えておりまして、彦根市がヘルメットを準備して小学生の皆さんに配ることまでは考えていません。

しかし、「1人がヘルメットをかぶれば1人、また1人とヘルメットを使う人が増える」と考え、中村さん自身が率先してヘルメットを着用されたことや、通気性がよくてかっこいいヘルメットならみんながかぶるのではないかと考えられたことはすばらしいことで、そのことが一人ひとりの交通安全意識を高めることにつながって、ヘルメットを着用する小学生が増えるのではないかと考えています。

これからもヘルメットを着用することの大切さを身近な人々からさらに伝え広げて、交通安全を推進するリーダーの1人となってくださることを願っています。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 中村さん。

〔6番（中村 悟さん）登壇〕

○6番（中村 悟さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 7番原卓也さん。原さん。

〔7番（原 卓也さん）登壇〕

○7番（原 卓也さん） 「鳥居本の自然をさらに生かした公園を」

彦根市には荒神山の公園や庄堺公園といった大きな公園があります。しかし、二つとも彦根南部にあり、鳥居本から行くには車を使わなければ行けません。そこで、鳥居本学区

に魅力ある大きな公園をつくることを提案します。

鳥居本には大きな公園をつくるだけの場所があります。また、多くの自然があります。その自然を利用して長い滑り台や滑車つきのアスレチックをつくることができます。公園を建設する際に多くの木を切ることとなりますが、その木を利用してアスレチックやシーソー、ブランコなどをつくることで木を無駄なく有効活用できます。

公園ができれば、僕たちのような小学生はもちろん、親子連れや地域の方々も集まる憩いの場になるはずです。自然の地形を生かした鳥居本の公園なら、きっと笑顔あふれる元気な公園になります。だから、彦根北部である鳥居本に大きな公園をつくることを提案します。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 彦根市内には、彦根城のある金亀公園、荒神山の麓にある荒神山公園、春と秋にはバラが咲き並ぶ庄堺公園、芹川のそばにある千鳥ヶ丘公園といった大きな公園から、通学時にごらんになられてご存じかとは思いますが、鳥居本小学校前の団地にある中町ニュータウン公園のような小さな公園まで約340カ所あります。

鳥居本学区には、この中でも金亀公園、荒神山公園、庄堺公園、千鳥ヶ丘公園の次に大きな鳥居本公園があります。この鳥居本公園は鳥居本町と荘巖寺町との間にあり、平成17年から事業に着手し、平成23年に完成したのですが、鳥居本学区の皆さんとともに、よい公園になるよう何度も話し合い、さまざまな意見をまとめながらつくり上げた公園となっています。

この公園には原さんが通っている鳥居本小学校のグラウンドとほぼ同じ大きさである約8,000平方メートルの多目的広場があり、野球やサッカーなどの球技や鳥居本学区の運動会など、多くのご利用をいただいています。そのほか芝生広場でグラウンドゴルフをしたり、大型遊具のある広場で楽しく遊んでいただいたり、外周の遊歩道で散歩を楽しんでいただくこともできます。ほかにも、トイレ、休憩所も整備されていますので、ぜひご利用いただきたいと思います。

また、ご提案いただきました公園をつくる際に切った樹木を利用してアスレチック遊具などをつくることにつきましては、鳥居本地域だけではなくさまざまな地域において公園づくりのアイデアとして今後の参考とさせていただきます。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 原さん。

〔7番（原 卓也さん）登壇〕

○7番（原 卓也さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 8番吹田萌望愛さん。吹田さん。

〔8番（吹田萌望愛さん）登壇〕

○8番（吹田萌望愛さん） 「駅東をみんなが集える場所へ」

私は、彦根駅東に緑地やみんなが楽しめるお店などを増やし、いろいろな人が集える場

所にすることを提案します。

現在、駅東には小さい子からお年寄りまでが楽しめるお店や公園がありません。そのため、彦根城のある西口の方へ人が行ってしまいがちです。駅東には土地が多く残っているため、ホテルだけでなくいろいろなお店や緑地などをつくるとよいと思います。

また、ことしの大河ドラマで井伊家のことが話題になっていること、国体が2024年にあることから、彦根に住んでいる私たちだけでなく、県外から来る観光客の人にも楽しんでもらえるとよいと思います。東口にもお土産屋さんや本屋、観光に来た人のために観光案内所などもあるとよいと思います。

駅東にいろいろな人が集える場所を増やしてはどうでしょうか。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 彦根駅東側の地区で土地の整備を行っているのは、彦根駅東土地区画整理事業といいます。この事業は、よりよいまちの環境をつくるために土地所有者の皆さんに土地の一部を提供していただき、道路、公園、河川などの公共施設を整備するとともに、土地を利用しやすい形に整えるもので、土地の利用については、それぞれの土地の所有者の方が考えて活用されます。このことから、今では土地所有者の方々が商業施設や分譲マンションなどを建設され、徐々にではありますが、まちのにぎわいが生まれてきています。

また、この地区では、駅の東口から国道8号に向かって駅前広場、中央広場、緑地公園を整備しています。ここには遊具などの施設はありませんが、小さいお子さんからお年寄りの方が親しく触れ合い、散策ができる憩いの場となるよう整備をしました。あわせて、住宅が建ち並んでいる二つの地区には、広い敷地ではありませんが、滑り台、ブランコのほかに健康遊具を設け、近所のお年寄りの方にも気軽に利用していただけるような公園を整備しました。

また、吹田さんの提案にあるように、彦根市が大河ドラマで話題になっていることや2024年に開催される国体に向けて、県外から来られる観光客の方々に彦根を楽しんでもらうことはとても大切なことだと思いますが、観光のために電車で彦根に来られる方は西口を出て彦根城に向かうルートを利用されていることから、駅西側にある観光案内所を利用されることが多いと思いますので、東口周辺に観光案内所をつくることは難しいと考えています。

しかし、駅東に残っている土地もお土産屋にするか本屋にするか、また別の土地利用をするかは、その土地の所有者の方が考えて活用されることとなりますので、吹田さんの考えと同じように、彦根市としても、人が集まり、まちがにぎやかになる施設をつくってもらえるようお願いをし、期待をしたいと思います。

○第1グループ議長（林 咲耶さん） 吹田さん。

〔8番（吹田萌望愛さん）登壇〕

○8番（吹田萌望愛さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

- 第1グループ議長（林 咲耶さん） しばらくの間、休憩します。
- 議会事務局長（岸田道幸さん） 休憩は10分程度といたします。

午前9時45分休憩

午前9時54分再開

- 第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 議長を交代しました。佐和山小学校、吹田萌望愛です。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番北川七虹さん、10番七里清夏さん、11番永田智之さん、12番目片舞さん、13番田中大翔さん、14番荒川陽彩さん、15番田中葉月さん、16番和田直也さんの順番とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番北川七虹さん。北川さん。

〔9番（北川七虹さん）登壇〕

- 9番（北川七虹さん） 「防犯灯が点灯する時間を季節によって変え、よりよいまちづくりを」

私は、安全のために設置されている防犯灯が点灯する時間を季節によって変えることを提案します。

冬の夕方、遊んだ友達を送って帰る4時半ごろ、家の近くの道で防犯灯がついておらず、人通りも少なく、暗くて不安でした。もう暗いのにと思ったことがあります。また、地域でも夕方にその道を散歩する人がいます。お年寄りの方もいるので、明かりがあると足元がよく見え、安全です。逆に、夏は18時でも明るいです。

そこで、市役所まちづくり推進室の人に防犯灯について尋ねてみました。すると、防犯灯は自治会で設置すること、自治会と自治会の間にある防犯灯は市が設置することがわかりました。私の場合は後者の方で、地図を見せていただくと、ちょうど自治会が担当していない道でした。だから、防犯灯が点灯する時間を夏は遅め、冬は早めるなど、季節によって変えることを提案します。

- 第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 企画振興部長。
- 企画振興部長（馬場完之さん） 北川さんからご提案いただきました防犯灯の点灯時間を季節によって変えることにつきましてお答えいたします。

彦根市では、道路照明がないところや、自治会等が防犯灯を設置される住宅地周辺でないところで防犯上必要な箇所、例えば集落と集落の間で夜間の利用が多い道路などを対象に「道あかり事業」として防犯灯を設置しています。

防犯灯には、あらかじめ設定した時刻になると点灯するタイマー式のもの、照度を感知し、暗くなると点灯するセンサー式のものがあり、彦根市ではこの両方のタイプが設置されており、近年ではセンサー式のものを採用しております。

教えていただきました北川さんのおうちの近くの三の丸と近江高校の間の道路につきましては、照度を感知するセンサー式の防犯灯を設置しています。

先日、夕方に現場にて状況を確認いたしましたところ、太陽が沈むころ、まだ完全には暗くない状態で100メートルぐらい先の車や人が確認できる明るさの時刻に防犯灯が点灯しました。この道路に設置しているものはセンサー式であり、北川さんの提案していただいた季節によって点灯する時刻が変わる防犯灯でありました。現場の状況から不安に感じられたのは、道幅が狭いことや、道路の片側に背の高い雑草などが生い茂っていることなどが要因ではないかと思われませんが、この地域については2024年の国民体育大会の活用が予定されておりまして、これに伴い環境面も改善されることが見込まれます。

いずれにいたしましても、この道路に限らず北川さんからご提案いただきましたように、季節に応じ適切な時刻に防犯灯が点灯することは省エネルギーの観点からも有効であり、また防犯上の観点でも住民の方が安心して生活していくために大切なことでもありますので、今後も「道あかり事業」で新たに設置する防犯灯についてはセンサー式のものを採用するとともに、既に設置している防犯灯のタイマー式のものについても、更新の時期に順次センサー式のものに切り替えてまいりたいと考えております。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 北川さん。

〔9番（北川七虹さん）登壇〕

○9番（北川七虹さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 10番七里清夏さん。七里さん。

〔10番（七里清夏さん）登壇、資料掲示〕

○10番（七里清夏さん） 「彦根城を世界遺産に」

私は、彦根城を世界遺産にするということを提案します。

私は、毎年、彦根城の写生大会に参加しています。そこに「彦根城を世界遺産に」という横断幕があり、とても興味が湧いたからです。夏休みの自由研究で「彦根城を世界遺産に」という題名で研究をし、彦根城を姫路城やディズニーランドと比較しました。その中で彦根城が誇れることは、江戸時代の大名文化が体験できること、自然と調和していることだと感じました。

彦根に生まれた1人として、この貴重な遺産を守り、未来に伝えたい。日本や世界の人々にすばらしいお城や歴史があることを知ってもらいたいと思いました。そのためには、まず、私たちが彦根城の歴史や文化について深く勉強することだと思います。例えば彦根市の小・中学生が彦根城を世界遺産にするための作文を書いたり、わくわく歴史カードをつくったりすることです。これが私のつくったわくわく歴史カードです。彦根城についてのクイズが書いてあります。また、キャッチコピーを考えてはどうかと思います。私が考えたキャッチコピーは、「江戸時代にタイムスリップ」です。

このような活動をすることで彦根城が世界遺産に近づいていくと思います。そこで、彦

根城を世界遺産にするための彦根市として進めておられる取り組みや、今後、彦根のすばらしさを発信していこうとされている計画について教えていただきたいと思います。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 山根副市長。

○副市長（山根裕子さん） 七里さんのおっしゃるとおり、彦根城やその周りを囲む堀、御殿、庭やうまや、そして武士や町人の屋敷がつくる空間には江戸期独特の雰囲気があり、タイムスリップしたように江戸期のまちを体験することができます。また、彦根城を囲む空間には、自然の美しさや地域の地形が融和しています。

世界遺産登録を実現するためには、この空間をつくる建造物や遺跡が人類史上意義ある唯一無二の存在であることをユネスコのルールにのっとって実証しなければなりません。「大名文化」は無形文化財ですので、背景情報にはなりますが、登録対象としては認められませんので、本物の建造物や遺跡を対象として考えるようにしております。

文化庁は、暫定リストに記載されている彦根城関連の資産について解決すべき三つの課題をこれまで投げかけておりました。それらの課題とは、一つ、彦根城とその関連資産が17世紀木造城郭建築の代表で人類の傑作として登録された姫路城とは異なること、二つ、彦根城とその関連資産は、国内外の類似資産とも相違すること、三つ、その城下は、開発が進んでいても世界遺産のルールの観点から価値があること、そして、構成資産となり得ることを示すことでした。

彦根市は、ことし4月、この三つの課題に対応する研究成果を文化庁に認めてもらい、現在は政府がユネスコの世界遺産委員会に推薦することができるよう、数百ページにわたる推薦書原案と資産の保存管理計画を作成中です。

彦根城の建造物や遺跡の価値を全世界に認めてもらうためには、むろん、その価値について説明し、全国・全世界に発信することが重要で、七里さんのおっしゃるとおり、人々がはっと感動するような独創的な方法が必要です。

昨年、子ども議会で英語のホームページをつくってはどうかとのご意見をいただきました。そこで、彦根屏風の動画も使った英語のホームページをつくりました。彦根市のホームページの歴史・文化財のタグから入り、H i k o n e C a s t l e T o w nをごらんになってください。

また、この冬には彦根城世界遺産登録のための意見交換や応援のための会も組織し、運動のロゴも公募いたします。学校関係の方々にもぜひご参加いただきたいと思っています。七里さんたちのお知恵が大変貴重です。一日も早い登録に向け、一緒に頑張っていきましょう。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 七里さん。

〔10番（七里清夏さん）登壇〕

○10番（七里清夏さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 11番永田智之さん。永田さん。

〔11番（永田智之さん）登壇〕

○11番（永田智之さん） 「路線バスや乗合タクシーなどのサービスの積極的な活用について」

僕は、路線バスや乗合タクシーなどのサービスの積極的な活用について提案します。

今、高齢者の運転により事故を起こしてしまうということがよくニュースに取り上げられています。僕のおじいちゃんも自動車を運転しますが、交通事故などに遭わないか、とても心配です。自動車の運転を控えて、できるだけ電車やバスなどの交通機関を利用してほしいと考えています。

彦根市では、市民が市内を行き来しやすいように、路線バスや乗合タクシーを備えていると知りました。彦根市内にたくさんの路線があって驚きました。しかし、これらの存在を知っている人は少ないのではないのでしょうか。

僕は、市内に便利な路線バスや乗合タクシーがあるということにより多くの人に知ってもらう必要があると思います。そのため、彦根市のラジオで取り上げてもらったり、公民館や駅など人がたくさん集まる場所にポスターを貼ったり、サービス券を配ったりするなどの宣伝をより積極的に行うとよいと思いますが、いかがでしょうか。

たくさんの市民が路線バスや乗合タクシーをより一層活用できれば、事故のない安全な彦根市をつくっていけると考え、提案します。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 今後、彦根市では高齢者の人口が増えていくことが予想されています。運転免許がなくても病院や買い物に行くことができる路線バスや乗合タクシーなどの公共交通は、ますます重要になると考えており、本市としましても、市内の全域で何らかの公共交通機関を利用できるよう、路線バス、乗合タクシーのそれぞれで多くの路線を運行するよう取り組んでいるところです。永田さんも驚かれたことと思います。

そのため、永田さんからいただいた彦根市の路線バスや乗合タクシーの路線をもっと多くの人に知ってもらう必要があるというご意見は、非常に重要であると考えておりまして、本市としましても、これまでさまざまな努力をしているところです。

例えば平成25年から走っている路線バスの車両にはひこにゃんのラッピングをして生活の中で路線バスの存在を意識していただく工夫をしています。また、毎年、沿線の全世帯に配布している路線バスや乗合タクシーの路線図や時刻表は、公共交通を使いたい人が自分に必要な路線や時刻表がすぐにわかるよう、文字を大きくしたり、情報を整理して見やすく配置したりしているところです。

しかし、ご指摘いただいたとおり、彦根市の公共交通についてさらに多くの人に知っていただき、利用していただくことが必要と考えておりますので、今後は彦根駅や南彦根駅といった電車と路線バスの乗り換えに便利な場所や市立病院など、多くの人が利用される停留所で乗りたいバスがすぐにわかるよう、情報の表示を工夫するなどして、より多くの

皆さんが公共交通の情報に触れる機会が増えるよう取り組んでいきたいと考えております。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 永田さん。

〔11番（永田智之さん）登壇〕

○11番（永田智之さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 12日目片舞さん。目片さん。

〔12番（目片 舞さん）登壇〕

○12番（目片 舞さん） 「みんなが快適に過ごせる彦根市をつくるために」

私は、誰もが快適に過ごせる彦根市にするための取り組みをさらに進めることを提案します。

私は、夏休みに盲学校で障害者の方の生活を体験して、食べることや服を畳むこと、歩くことが思っていた以上に大変だと感じました。ふだんあまり気にしていなかった手すりやスロープなど、障害者の方だけではなく小さい子やお年寄りの方にも大切だと感じました。

私の住んでいる地域の道は、歩行者や自転車がぶつかりそうになることがあり、色分けなどをして歩く人と自転車の人の使う場所を分けるといいと思います。また、点字ブロックが少ないので、必要なところは設置してほしいです。

しかし、いくらこのような対策をしても、点字ブロックの上に自転車や荷物を置いて障害者の方の歩行を妨げたり、また、電車やバスの優先席に一般の方が座ったまま席を譲らなかつたりすることがあります。だから、設備を整えるだけではなく、思いやりの気持ちを育むことも必要です。だから、設備を整えながら思いやりの気持ちを育む取り組みをさらに進め、みんなが暮らしやすい彦根市をつくっていくことを提案します。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（牧野 正さん） 皆さんが快適に過ごせるまちをつくるため、現在、彦根市では特に多くの人が集まる彦根駅と南彦根駅周辺の主要な道路において、歩道の段差を解消したり、点字ブロックを設置したりするなどのバリアフリー化を行っています。また、この周辺の比較的幅の広い歩道におきましては、自転車と歩行者が通行する場所を線で区切るなどの表示も行っています。

あわせて、目片さんが提案していただいているように、設備の整備だけではなく思いやりの気持ちを育む取り組みも大変重要であると考えています。その取り組みの一つとして、車椅子を利用している人を絵にした障害者のための国際シンボルマークを初め、いろんな種類の障害のある人に関するマークを市のホームページや「広報ひこね」に掲載し、マークの持っている意味を理解していただいたり、マークを見かけたときに協力してほしいことをお知らせしています。

また、市のホームページには彦根バリアフリーマップも掲載しています。このマップでは市内にある建物などのバリアフリーの設備状況を紹介しており、障害のある方が外出さ

れる場合に少しでも手助けになればと考えています。そのほかに、障害理解を深めるための講演会を開催したり、ヘルプマークやヘルプカードを配布したりする取り組みなども行っています。

これからも目片さんの貴重なご提案に応えることができるよう、新しい道路についてはバリアフリーに配慮した整備を行うとともに、思いやりの気持ちを育んでいく取り組みをさらに進めていきたいと考えています。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 目片さん。

〔12番（目片 舞さん）登壇〕

○12番（目片 舞さん） ありがとうございます。これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 13番田中大翔さん。田中さん。

〔13番（田中大翔さん）登壇、資料掲示〕

○13番（田中大翔さん） 「命を守る信号の設置を」

僕は、彦根東中学校の近くの交差点に信号をつけることを提案します。その理由は二つあります。

一つ目は、下校中に横断歩道を渡ろうとしたとき、車がスピードを出して走ってきてぶつかりそうになりました。また、雨の日に傘を差して渡るとき、車が来ていることがわからず、危ないことがありました。下校中にこんな怖いことがあるから、事故が起こる前に信号をつけてほしいと思います。

二つ目は、小さい子が左右の確認を忘れて周りを見ないで渡ってしまう姿を見て危険だと感じました。それは、お年寄りなど全ての人にあり得ることだと思います。

僕は、下校する人、小さい子、お年寄りなど全ての人々の命を守るために信号をつけることを提案します。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 信号機などの交通規制に関することにつきましては、彦根警察署で検討された上で必要性が高いと判断された箇所について、滋賀県警察本部にお願いし、最終的には滋賀県公安委員会で調整をされ決定されますので、本市としましては、信号機設置などの交通規制に関するご要望をいただいた場合は彦根警察署と協議を行っています。

交通規制の中でも、信号機の設置については、警察庁が定められた「信号機設置の指針」の必要条件に該当するかどうかを彦根警察署で判断・検討されます。この「信号機設置の指針」の必要条件には、「自動車同士が安全にすれ違うための車道の幅があること」「歩行者が安全に横断待ちをするための停留場所があること」「主となる道路の自動車等往復交通量が最大となる1時間で原則300台以上あること」「隣にある信号機との距離が原則150メートル以上離れていること」が定められています。

今回、田中さんからご提案をいただきました東中学校近くの交差点への信号機設置について、彦根警察署に確認をしましたが、「東西の道路、南北の道路ともに交通量が少なく、

この指針には該当しない」とのことでした。また、「横断歩道が設置されているので、歩行者等がいる場合は道路交通法では一時停止の義務があることから、信号機の設置はできない」とのことでした。

しかし、本市としましては、彦根警察署、彦根交通安全協会などと連携しながら定期的に行っている交通安全運動や、街頭や交差点での啓発、「広報ひこね」での啓発などにより、ドライバーや自転車走行者の運転マナーが向上するよう努めているところです。

今後も一人ひとりが交通安全に気をつけることでみんなが安心して暮らせるまちをつくりたいと考えていますので、田中さんも登下校や日常生活の中で家族やお友達、何より自分自身が事故に遭わないよう、ルールを守って通行していただき、安全なまちづくりに貢献していただきたいと思います。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 田中さん。

〔13番（田中大翔さん）登壇〕

○13番（田中大翔さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 14番荒川陽彩さん。荒川さん。

〔14番（荒川陽彩さん）登壇〕

○14番（荒川陽彩さん） 「みんなが喜ぶ給食にするために」

私は、給食にみんなが希望するデザートなどが出るようにすることを提案します。

私たちの食べている給食は、パンや肉、魚、野菜などバランスがとれていて、とてもおいしいです。ランチ委員会がアンケートした結果でも、ほとんどの人が「給食がおいしい」と答えていました。しかし、もっと出してほしいものも委員会の話し合いで多数意見がありました。それは、最近よく出ている日本の代表的な農産物を使ったお米タルト、季節に合わせたクリスマスシャーベットやかしわ餅などです。また、昔はクレープアイスが出ていたとお父さんから思い出話を聞きました。なぜ、今はそういったものがなくなったのですか。

学校の給食ではデザートを楽しみにしている児童がたくさんいます。みんながさらにおいしく楽しい給食にするためにも、各学校の子どもの意見を聞き、彦根市の子どもに人気のデザートを出していただきたいです。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 学校給食の目的は、子どもたちの心と体が元気で大きくなることです。そのため、学校給食では栄養バランスを第一に、郷土料理や地元の食材を取り入れながら献立を立てています。

お尋ねのデザートにつきましては、主に御飯やおかずだけではなかなかとれないカルシウムやビタミン類を補うために出しています。このため、デザートは献立の内容で決まってくるので、人気のデザートを何度も出せるというわけではありません。今年度のデザートについては、旬のリンゴ、ミカンなどの果物、ヨーグルト、ミニグレープゼリーやさ

くらんぼゼリー、行事に合わせてかしわ餅や七夕ゼリー、彦根市の特産物である彦根梨でつくったゼリーなど、現在まで16回出ました。また、11月には大学芋やフルーツあえ、12月にはイチゴスティックケーキが出てくるような予定ともなっています。

これからも、児童の皆さんの意見も参考にして、校長先生や教頭先生、保護者の方、給食主任の先生などで構成される献立検討委員会でいろいろ話し合いながら、さらにおいしく楽しい給食になるように努力していきたいと思っています。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 荒川さん。

〔14番（荒川陽彩さん）登壇〕

○14番（荒川陽彩さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 15番田中葉月さん。田中さん。

〔15番（田中葉月さん）登壇〕

○15番（田中葉月さん） 「彦根市の洪水対策について」

私は、彦根市の洪水対策について質問します。

私の住んでいる安食中町には安食川という川が流れています。安食川は私の家の前にあるのですが、私の家は坂道の下にあるため、とても土地が低いのです。滋賀県は洪水の心配があまりないと聞きました。ですが、最近の天候は、温暖化の影響か、ゲリラ豪雨のように短時間にたくさんの雨が降って洪水になることが日本のどこでも起きるようになってきています。

私の住む安食中町でも3年ほど前に安食川の水があふれたことがありました。私の家の玄関前まで水が押し寄せ、トイレやシャワーが使えなくなりました。短い間だったけど、とても怖く、不便でした。そのため、テレビのニュースで洪水の被害の話を聞くと、とても人ごとには思えません。

このように、私は洪水を体験しています。ですから、洪水の怖さを知っている私が市の取り組みを知り、洪水を防ぐための準備をしていきたいのです。そのため、彦根市での洪水対策を教えてください。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 近年、全国各地で豪雨による洪水が発生し、多くの被害が出ています。田中さんがお住まいの安食中町を流れる一級河川安食川においても、平成26年8月に短時間に集中して大雨が降ったため、水があふれました。また、先月の22日に襲来した台風21号でも、安食川を初め彦根市内幾つかの川で水があふれています。

このため、彦根市では、大雨のときの被害をできるだけ少なくするよう、過去に洪水被害があった箇所など、緊急性の高いところから川や水路の幅を広げたり、新しく川をつくったりするなどの対策を進めています。また、犬上川や安食川などの一級河川については、一級河川の管理者である滋賀県が計画的に対策を進められていますが、時間も費用もかかることから思うように進んでいないのが現状です。

このような状況の中で、特に安食川の改善策については、滋賀県とこれまで何度も話し合いを行ってきており、急いで改善策を実施していただけるよう滋賀県にお願いをしています。しかしながら、一方では、ことしの九州北部豪雨のような大きな自然の力の前では人間の力はわずかで、災害そのものを防ぐことは困難であることを改めて思い知らされたところです。

そこで、彦根市では、いざというときに自主的に確実かつ安全に避難できるよう、ハザードマップを配って市民の皆さんに水害や土砂災害の危険性、避難の方法などについてお知らせをしています。これからも大雨による洪水が起こった場合に備えて、市民の皆さんが素早く身を守るための行動がとれるよう、情報発信をすることや、大雨による被害を最小限にとめられるように、川や水路の対策を進めていきたいと思っています。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 田中さん。

〔15番（田中葉月さん）登壇〕

○15番（田中葉月さん） 私の洪水対策を提案させていただきます。

まず、川の中に住んでいる魚を別の場所に移し、川の水をとめます。そして、川の底を深く掘り、少しでも川の中に入る水の量を増やします。そして、洪水になる確率が少しでも減ってくれるとうれしいです。難しい活動ではあると思いますが、ぜひご検討をよろしくお願いします。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 田中さんご指摘の改修方法については、専門用語になるんですが、しゅんせつという工法になります。川の底をすくって断面を大きくするという、これは当然参考とさせていただきたいと思っています。

また、滋賀県の方も、今いうしゅんせつ工法とするのか、二重断面、川の中にもう一つ川をつくって流れる面積を広くすると、田中さんご指摘の工法とよく似ておるんですが、とりあえず川の断面積を広くするという工法など、いろいろ検討されていますので、彦根市としましても、今後、県と相談しながら、できるだけ早く完了するように県の方をお願いしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 田中さん。

〔15番（田中葉月さん）登壇〕

○15番（田中葉月さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 16番和田直也さん。和田さん。

〔16番（和田直也さん）登壇〕

○16番（和田直也さん） 「カラスやのらねこの来ないきれいな町に」

僕は、まちをきれいにすることを提案します。

僕の地域では、カラスがごみの袋を破ったり、猫が庭に来てふんをしたりして困ることがあります。道路にごみが散らかっていると、とても残念に思います。

彦根市ではこういったことに対して、ごみ集積所のネットをかごに変えたり、時間を守ってごみを出すよう市民に呼びかけしたりしてくださっているとお聞きしました。

カラス、のらねこ対策には、食べ物となるごみの量を減らすことが大事だと思います。4年生のときに行った清掃センターの見学では、一人ひとりが出すごみの量の多さにとっても驚きました。一人ひとりが出すごみの量を減らすことによって環境を守ることにもつながるし、まちもきれいになることがわかりました。

これからも、僕は、一人ひとりが出すごみの量を減らすために地域の人たちに声をかけたいと思います。美しいまちづくりを目指してごみの量を減らすことの大切さを今以上に強く呼びかけていくことを提案します。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） 彦根市のごみの量を市民1人が1日に出すごみの量に換算しますと、平成25年度には1,112グラムありましたが、以降、年々減少し、平成28年度には895グラムまで減ってきています。しかし、それでも1リットルの牛乳パック1本弱の重さのごみを毎日出していることになります。

和田さんから「カラスやのらねこ対策にごみを減らす」というご提案をいただきましたが、全くそのとおりで、ごみの中でも特にカラスやのらねこの餌となる「生ごみ」を減らすことが大切な取り組みの一つだと市としても考えています。

彦根市では、今年度、家庭から出されたごみの中にどのような生ごみがどれくらい含まれているかを調査しています。これまでの調査結果から、家庭から出された燃やすごみのうち約30%が生ごみで、その生ごみのうち約半分は「食べ残し」や「賞味期限切れ」など、本来食べることができるのに捨てられる「もったいない」生ごみであることがわかりました。

彦根市では生ごみを減らすための工夫をPRし、市の広報紙や出前講座などで一人ひとりが気づいてできることをお願いしています。例えば、生ごみを出さないために、「料理は残さずおいしく食べ切ること」や「賞味期限や消費期限の近い食材から食べること」、また、「野菜や果物の皮は薄くむくようにすること」を勧めています。そして、もう一度使えないか考えてもらうために、「食材が残ってしまったときにはほかの料理にアレンジしてみましょう」と呼びかけています。さらに、生ごみとなってしまったものは、微生物を使って生ごみを堆肥にし、野菜の肥料に使用するなど、リサイクルの取り組みも進めてきています。

しかし、まだまだ多くのごみが出されている状況があります。和田さんのご提案のとおり、出されるごみの量を減らすためには、今以上に市民の皆さんに強く呼びかけ、一人ひとりがごみを減らす意識を持てるよう取り組んでまいります。ぜひ、和田さんのご家庭でも今までどおりご協力をお願いします。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） 和田さん。

〔16番（和田直也さん）登壇〕

○16番（和田直也さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（吹田萌望愛さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（岸田道幸さん） 休憩は10分程度とします。

午前10時38分休憩

午前10時48分再開

○第3グループ議長（和田直也さん） 議長を交代しました。城東小学校、和田直也です。よろしくお願ひします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、17番廣田愛結さん、18番柴谷茉佑さん、19番蒲池一義さん、20番疋田蓮さん、21番田原涼羽さん、22番西野美織さん、23番堀内拓人さん、24番林咲耶さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

17番廣田愛結さん。廣田さん。

〔17番（廣田愛結さん）登壇、資料掲示〕

○17番（廣田愛結さん） 「私たちの通学路にガードレールの設置を」

私は、通学路にガードレールを設置することを提案します。

私がいつも通学する道の途中には、とても細い道があります。そこは、車1台がすれ違うだけでも大変なくらい細い道です。朝の通学時間帯は車もよく通るし、まだ通学に慣れていない1年生や2年生もいて、とても危険だなとも感じています。

さらに、グリーンベルトのあるところとないところがあって、特にこの狭い通学路の部分はグリーンベルトがありません。だから、ガードレールをつけてもらえると、みんなが安心して通学できるし、安全に楽しく学校に通うことができると思います。

なので、私は、高宮小学校みんなが毎日通うこの通学路の細くなった道にガードレールを設置することを提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） 小学校の通学路の安全対策につきましては、廣田さんが通学されています高宮小学校を初め彦根市内17の小学校全てにおいて、毎年5月ごろに各小学校から通学路の中で危険と感じられる箇所を報告していただき、小学校の先生、教育委員会、彦根警察署および道路を管理する県や市の職員が合同で点検を実施し、状況の把握を行い、どのような対策をすれば安全な通学路になるかを検討し、その後、対策工事を実施しています。また、対策工事が終わった後には、工事が行われた箇所が本当に安全になったのかを検証しています。

廣田さんが通っている通学路では、平成25年に近江鉄道の踏切付近を、平成26年には大日本スクリーン彦根工場前の道路にグリーンベルトを設置し、通学路を明確にする工事を行いました。また、平成28年にはマルホ彦根工場付近の交差点に横断歩道を設置するなど

の安全対策を行っています。

今回、廣田さんからご提案いただきました狭い道路にガードレールを設置することは、通行される歩行者にとっては安全になりますが、車の運転手から見ると、道路の幅が狭くなり、自動車のすれ違いができなくなります。このことから、道路を利用する歩行者や自転車、自動車など全てが安全で快適に通行できるように、場所ごとに応じた安全対策を進めているところです。その中でも特に通学路の安全対策は重要と考えていますので、皆さんが小学校へ安心・安全に通えるよう、できる限りの安全対策を行っていきたいと考えています。

○第3グループ議長（和田直也さん） 廣田さん。

〔17番（廣田愛結さん）登壇〕

○17番（廣田愛結さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 18番柴谷茉佑さん。柴谷さん。

〔18番（柴谷茉佑さん）登壇〕

○18番（柴谷茉佑さん） 「彦根梨を広めるために」

私は、稲枝学区でつくられている彦根梨を滋賀県全体にもっと広めてほしいと思います。なぜなら、自分が住んでいる彦根の特産品を滋賀県に住んでいるたくさんの人に食べてもらいたいと思ったからです。

私は、今まで彦根市以外のスーパーや道の駅で彦根梨を使ったスイーツやお菓子が売られているお店を見たことがありません。あんなに美味しい彦根梨がなぜ売られていないのだろうといつも思ってしまいます。

そこで、私は、彦根市以外のスーパーや道の駅で彦根梨を使ったスイーツやお菓子を売ることを提案します。私は、彦根市内で洋梨のケーキを売っているお店を見たことがあります。あの甘い彦根梨をケーキにするのだから、よりおいしくなると思います。また、彦根梨には「幸水」と「豊水」という味の違う二つの梨があります。この2種類の梨を使って味の違うスイーツをつくってみてはどうかと思います。

このように、手間暇かけてつくられた彦根梨をもっと有名にしてほしいです。さらに、今、彦根市では「ひこね梨さんぽ」というスタンプラリーをやっています。このような取り組みも滋賀県内に広めていただけるよう提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 産業部長。

○産業部長（黒澤茂樹さん） 柴谷さんのおっしゃるように、彦根の特産品である「彦根梨」をもっとたくさんの人に食べてもらうために、滋賀県全体に広めていくことはとても大事なことだと思っています。

今は彦根梨の出荷できる量は50万個と聞いていますが、実は、ほかの梨の生産地と比べるととても少ない量なので、彦根市外からのリクエストがあっても、なかなか応えられないという事情があります。ですが、これから彦根梨の木はまだまだ成長するので、出荷で

きる量は数年後には80万個に増える予定と聞いています。そのときには彦根市以外でも食べてもらえる梨の量が増えるのではないかと考えています。

また、柴谷さんが思われたように、甘くておいしそうな洋梨のケーキやお菓子はたくさんまちなかで見かけますが、「幸水」や「豊水」を使った彦根梨のケーキやお菓子はあまり目にする機会がありませんでした。ですが、柴谷さんもご存じの「ひこね梨さんぽ」がきっかけで、これまで思ってもみなかった彦根梨の料理を料理人さんがたくさん作り出してくれました。例えば「梨のピザ」、「梨のおすし」、「梨のハンバーガー」などです。梨にはいろんな可能性があることを私たち自身も学びました。また、「梨のジェラート」や「梨のようかん」、「梨のドライフルーツ」など保存できるお菓子も幾つか生まれました。今はこの取り組みを始めて2年目で、「幸水」と「豊水」の種類の違いを生かした商品まではつくられていませんが、いずれ、こうしたいろいろな梨の商品が彦根市内や市外の直売所、スーパーで販売されるようになるのではないかと考えています。

彦根梨はまだまだ多くの可能性を秘めていると感じています。これからも梨農家の皆さんと力を合わせて、たくさんの人に「彦根梨」のおいしさを伝えていく仕事を続けていきますので、「彦根梨」の商品が並ぶようになるのをぜひ楽しみに待っていただきたいと思います。

○第3グループ議長（和田直也さん） 柴谷さん。

〔18番（柴谷茉佑さん）登壇〕

○18番（柴谷茉佑さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 19番蒲池一義さん。蒲池さん。

〔19番（蒲池一義さん）登壇〕

○19番（蒲池一義さん） 「ビワイチを応援し、湖岸に立ち寄ってもらうために」

ビワイチをやっている人たちを応援するために、ビワイチを応援することを提案します。

彦根の湖岸道路は、彦根城や荒神山などが見えて景色がいいけれど、立ち寄ってゆっくりする場所が少ないので、通り過ぎる人が多いと思います。飲食店をつくったら立ち寄る人が増えるかもしれないけど、自然を壊したくないので、今の自然を生かす形で立ち寄れる場所ができればいいと考えます。

例えば琵琶湖を見渡す高台をつくり景色を楽しむことができるようにすると、ビワイチをする人の休憩所にもなり、彦根の湖岸道路がにぎやかになります。そして、自然を生かした彦根の観光スポットとして、ビワイチをしている人から彦根のよさが広まっていくと思います。琵琶湖に面した彦根としてビワイチを応援して人が集まるにぎやかなまちにすることを提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 蒲池一義さんのビワイチに関する質問にお答えをいたします。

ここ数年、びわ湖一周サイクリング、いわゆる「ビワイチ」について、参加される方が増加しておりまして、滋賀県では今年度から「ビワイチ推進室」を設置しまして、たくさんの方に来ていただけるための情報発信や環境整備など、積極的に「ビワイチ」の推進に取り組まれているところです。

彦根市では、10月13日、「ビワイチ」の途中に本市にお越しになりました台湾の方々をお迎えしまして、彦根城や玄宮園などをご案内するなどのおもてなしをいたしまして、私自身も伴走して長浜までご一緒し、琵琶湖湖畔を自転車で駆け抜ける「ビワイチ」のよさについて感じたところでございます。

蒲池さんがおっしゃるように、「ビワイチ」をされる方が彦根城など観光スポットに立ち寄ることなく彦根市を通過されているということもございますので、「ビワイチ」を活用した観光を進める上ではサイクリストの受け入れ環境の整備が重要な課題の一つであるというように考えております。

現在、滋賀県では、「ビワイチ」をより安心して快適に楽しんでいただくために立ち寄れる場所として、サポートステーションを湖岸道路沿いのコンビニエンスストアのほか、市内の一部の宿泊施設や店舗などにも設置されています。

今回、琵琶湖を見渡す高台をつくるなどのご意見をいただいておりますが、彦根市としましては、本市が発行いたします観光パンフレットなどにサポートステーションの位置情報を掲載することや、市内の観光施設などにロードバイク専用のラックや自転車用空気入れを設置すること、近年、「ビワイチ」関連での宿泊利用が増加しつつあります荒神山自然の家さらなる利用拡大など、受け入れ体制の整備を整えていくことで「ビワイチ」を応援したいと考えております。

私も台湾の自転車の会社に滋賀県の「ビワイチ」のアピールに伺いましたが、観光に自転車で訪れる方々は、大体1日70キロ走行したいということです。県内でうまく70キロのコースを幾つかつくって、そして具体的に参加される方にアピールしていくということが重要ですので、これからの課題として彦根市としてもいろんな観光めぐりをしていただけるようなルートをつくっていくために研究していきたいと思っております。

○第3グループ議長（和田直也さん） 蒲池さん。

〔19番（蒲池一義さん）登壇〕

○19番（蒲池一義さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 20番疋田蓮さん。疋田さん。

〔20番（疋田 蓮さん）登壇〕

○20番（疋田 蓮さん） 「須越町にみんなが安心して遊べる公園を」

僕は、須越町にみんなが自由に安心して遊べる公園をつくることを提案します。

須越町には、現在、公園がありません。広い場所はお寺と保育園しかありません。お寺は建物やガラスにボールが当たることがあるので思い切り遊べません。保育園も小さな子

子どもが遊んでいるので、遠慮しながら使っています。そうすると、結局は家の前の細い道路で遊ぶか、隣の町の公園に行くこととなります。僕も家の前の道路で時々遊びますが、自転車が通ったり、狭かったりして、やはり危険です。隣の町の公園や学校は距離が遠く、家族に送り迎えしてもらっている人もたくさんいます。そのため自転車に乗れない小さな子や家族が忙しい人は遊びに行けないし、たくさん時間があるときでないと遊びに行けません。みんなが自由に遊ばず、家の中で遊んだり、隣の町に遊びに行ったりするので、町内が寂しくなっていくような気がします。

これらの理由から、僕はみんなが自由に安心して遊べる公園を須越町につくることを提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（山本茂春さん） ご指摘のように、須越町には彦根市のつくった公園はありません。これはなぜかといいますと、一つの公園をつくるには大きな土地と多額の費用が必要になりますので、彦根市の全ての町に公園をつくっていくことは難しいと考えています。

こうした彦根市が整備する公園がない町では、道路上で遊ぶことは大変危険ですので、お寺の一部や空き地に遊具等を自治会などで整備していただいたところを広場や公園としてご利用いただいたり、近くにある公園を活用していただいたりしています。

一方で、須越町は琵琶湖に面していますが、この琵琶湖の湖岸は、すぐれた自然の風景を保護していくとともに、自然と親しみ、野外で休息や遊びなどを楽しんでいただくことを目的とした自然公園として指定されています。須越町内の琵琶湖岸沿いには広くて平坦な空地があり、遊具などは整備されていませんが、広場として利用することは可能ですので、このような琵琶湖岸の土地をみんなでご利用いただくことで町内も明るくなると思います。

また、お隣の三津屋町には、行き帰りの際には注意が必要ですが、滋賀県により曾根沼全体が琵琶湖湖岸緑地曾根沼公園として整備されています。この公園には遊具などが設置され、芝生の広場やトイレも整備されており、さらには、栈橋で曾根沼の上を散歩することができます。

ほかにも須越町の近くには彦根市内で一番大きな遊具があり、テニスやグラウンドゴルフも楽しめる荒神山公園もございますので、休日にはご家族やお友達と一緒にこれらの公園にも出向いていただき、楽しくご利用いただければと思います。

○第3グループ議長（和田直也さん） 正田さん。

〔20番（正田 蓮さん）登壇〕

○20番（正田 蓮さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 21番田原涼羽さん。田原さん。

〔21番（田原涼羽さん）登壇〕

○21番（田原涼羽さん） 「彦根市全体をGreen Cityに」

私は、彦根市に緑を増やし、彦根市をGreen Cityにすることを提案します。

なぜなら、今、私の通っている若葉小学校には木が2,000本以上、花やオニバスなどの池の植物を合わせると100種類以上とたくさんの自然に囲まれています。この若葉小学校で学習や生活をし、自然を大切にしたいという心が芽生えました。また、緑が多いと空気がきれいになるので、環境もよくなります。

また、私はペアの3年生とアラカシという木を育てています。観察や水やり、調べ学習をすることで自然を大切にしたいという心を持ち、年下の子と一緒に活動することで人に親切にする心を学ぶことができました。

私は、Green Cityにするために次の二つを提案します。

一つ目は、地域にも緑を増やすため、市民一人ひとりが1本の木を育てるということです。地域同士の交流も増えると思います。

二つ目は、少なくなっている田や畑を増やし、緑を増やすことです。米や野菜づくりも盛んになると思います。

自然や人を大切にしたいという心が生まれ、みんなが暮らしやすい彦根市になるので、彦根市をGreen Cityにすることを提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 川嶋副市長。

○副市長（川嶋恒紹さん） 田原さんが通われる若葉小学校は、昨年度の全日本学校関係緑化コンクールの学校環境緑化の部で準特選を受賞されまして、現在も学校の緑化を推進し、植物を育てる学習を通じて自然を大切にしようとする心や人を思いやる心を育てられているということでございます。

彦根市におきましても、市民憲章の中で、「郷土を愛し、水と緑の美しいまちをつくります」としていることから、緑は大切なものと考えておりますし、緑豊かなまちを目指すために「彦根市緑の基本計画」をつくって、木や芝生などを植えて新しい公園をつくったり、道路に沿って木を植えたり、市民の皆様にご協力をいただいて大きなマンションやアパート、工場などを建設する際に樹木や芝などを植えてもらい、緑化を図っていただいております。

田原さんにご提案いただきました「市民一人ひとりが1本の樹木を育てること」につきましては、皆様にご協力いただいた緑の募金を活用して、市民1人1本までとはいきませんが、学校や集会所、広場などに植える木の苗を配布する活動を行って地域の緑を増やし、育てていただいているところでございます。

また、「田や畑を増やすことで緑を増やす取り組み」につきましては、田畑を新たに増やすことは大変難しいことですが、現在、彦根市では活用されなくなりました田畑が増えてきていることから、これらの田畑の草刈りなどをして、もう一度お米や野菜などをつくっていただけるよう支援する取り組みを行い、今ある田畑の緑の維持に努めているところでございます。

緑を大切にしようとする人が1人でも増えていけば、緑豊かな快適なまちづくり、つまり、田原さんのおっしゃるGreen Cityにつながり、また、緑を通じて人と人との交流の機会や多様な生物とのふれあいが増えることで、みんなの心も豊かになっていくものと考えます。

彦根市では、ご提案いただいた取り組みなどを参考にさせていただいて、緑豊かなまちづくりを目指していきたいというように思っています。

○第3グループ議長（和田直也さん） 田原さん。

〔21番（田原涼羽さん）登壇〕

○21番（田原涼羽さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 22番西野美織さん。西野さん。

〔22番（西野美織さん）登壇〕

○22番（西野美織さん） 「稲枝に図書館を」

私は本を読むのが好きです。特に伝記を読むのが好きです。本が読める機会が増えるように、次の二つのことを提案します。

一つ目は、稲枝に図書館を建てることです。図書館にはよいことがたくさんあります。本を読むことによって知識が増えます。また、他校の人や違う世代の人と触れ合える場所にもなります。私は、前に彦根市立図書館で本を読んでいるときに、おばあさんに声をかけられてお話ができてうれしかったです。そのときに、図書館は本を借りるだけでなく、人とのかかわりが増える場所だと気づきました。稲枝は思っている以上に広く、学校を超えて交流することは難しいです。しかし、図書館ができれば、いろいろな場所・世代の人と交流することができます。知識を増やす場所、人と人が触れ合える場所をぜひ稲枝につくってください。

二つ目は、たちばな号の巡回日と時間を変更することを提案します。私はたちばな号を稲枝で見たことがありません。それは平日の昼間に巡回するからです。もし休日の2時から来てくれれば、利用する機会が増えます。ぜひ変更について考えていただけませんか。

以上、稲枝に図書館をつくることと、たちばな号の訪問時刻の変更の2点を提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 教育部参事。

○教育部参事（西川利樹さん） 西野さんは市立図書館ですてきな体験をされたようで、大変うれしく思います。

さて、彦根市では、ことしの3月に市全域にわたる図書館サービスの提供、図書館が身近に利用できる環境の整備などに向けて「彦根市図書館整備基本計画」をつくりました。新しい図書館を整備するときには、本を借りるだけでなく、西野さんが体験されたように、人と人、また本と人をつなぐ、出会いや交流を大切にしたいと考えております。

今後は、この計画をもとに図書館の整備を進めていく予定であり、現在の図書館は北部館として引き続き使用し、新しく河瀬・亀山学区に中央館を、また稲枝地域には南部館を建設する計画としています。

次に、たちばな号に対する提案にお答えします。

現在、移動図書館たちばな号は、毎月、地域の公民館や公共施設など市内52カ所のステーションを1日三、四カ所ずつ、16日間で巡回しています。巡回の日時は土曜日になることもありますが、ほとんどは西野さんがおっしゃるように平日の昼間となっています。

ご提案いただいた休日の午後に巡回することにつきましては、これまでも検討してきましたが、たちばな号の運行に係る経費の面などからなかなか実現できませんでした。これからは、日程やコースなどの見直しも含め、休日にたちばな号の巡回を増やせるように努力していきたいと考えています。

西野さんのどちらの提案も、誰もがいつでもどこでも図書館を利用できるように考えてもらったものだと思います。彦根市では、これからそのような環境をつくるための取り組みを順次進めていきたいと考えています。

○第3グループ議長（和田直也さん） 西野さん。

〔22番（西野美織さん）登壇〕

○22番（西野美織さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 23番堀内拓人さん。堀内さん。

〔23番（堀内拓人さん）登壇〕

○23番（堀内拓人さん） 「彦根市の地場産業について」

私は、彦根市の地場産業についてお聞きします。

彦根の産業は、仏壇、バルブ、縫製が特に盛んです。この三つの産業について地域経済振興課にお聞きしたところ、全国にも広く知られているそうです。しかし、仏壇は京都の方が全国的にも有名になっているし、縫製についても、ほかの都道府県の企業も有名であると聞きました。お母さんは彦根の仏壇にかかわる会社で働いていて、一時期仕事がなかったときがありました。

そこで、彦根の地場産業をもっと全国に広めるために提案します。彦根のPR動画をつくるというのはどうでしょう。彦根のPR動画をつくって、彦根の地場産業をもっと全国の人々に知ってもらいたいと思います。それを見て彦根に興味を持ってくれると思います。例えば彦根の地場産業のよさが伝わる動画などをつくればいいと思います。

彦根市では地場産業についてどのようにお考えでしょうか。お伺いします。

○第3グループ議長（和田直也さん） 産業部長。

○産業部長（黒澤茂樹さん） 仏壇、バルブ、ファンデーション、縫製ですね、縫製の三つの地場産業につきましては、長い歴史と高い技術を持っており、彦根市を代表する産業となっております。しかし、最近ではライフスタイル、生活様式の変化や海外の安い製

品との競争が厳しくなるなど、三つの地場産業それぞれを取り巻く環境が変わってきており、厳しい状態が続いています。

こうしたことから、彦根市では平成27年に彦根市地場産業活性化基本方針および行動計画を策定し、今後の地場産業の活性化に向けて彦根市が取り組むべきことをまとめました。現在、彦根市では、この計画に従って地場産業の活性化を図っているところでございます。

ご提案の地場産業のPR動画については、既に平成27年度から仏壇組合において仏壇職人の技術の伝承とそのPRを目的として、滋賀大学と連携し、動画作成に取り組まれており、彦根市も補助金などの支援を行っているところでございます。

彦根市では、今後もこうしたPR動画の作成やいろいろな展示会への出展などを支援するとともに、バルブやファンデーションも含めた3地場産業全体のPRについても支援を行っていきたいと考えています。

最初にもお話ししましたとおり、三つの地場産業は、長い歴史と高い技術を持っており、彦根市を代表する産業となっています。こうしたことから彦根市では、地場産業の活性化は彦根市の経済の活性化にとってとても大切であると考えており、今後も彦根市地場産業活性化基本方針および行動計画に従って地場産業の活性化に取り組んでいきたいと考えています。

○第3グループ議長（和田直也さん） 堀内さん。

〔23番（堀内拓人さん）登壇〕

○23番（堀内拓人さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 24番林咲耶さん。林さん。

〔24番（林 咲耶さん）登壇〕

○24番（林 咲耶さん） 「彦根に温水プールをつくってほしい」

私は、彦根市に温水プールをつくってほしいと考えています。

今、私は市内で水泳を習っていますが、自主練習ができるプールが近くにありません。そのため、能登川や秦荘などの市外のプールを利用しています。しかし、利用時間が限られていたり、交通が不便であったり、また、市外料金になったりと利用しづらいです。彦根市に温水プールがあれば、もっと身近に水泳をすることができ、体力向上にもつながります。

私は、幼いころから水泳を習っていて、水中で体を動かす気持ちよさや水泳の大切さを知り、水泳が一層好きになりました。また、タイム板などを設置すれば、より目標をもって取り組むことができると思います。そして、大橋選手のような世界に通用する選手が彦根市からたくさん出てきてほしいです。ただ、温水プールを維持していくには費用がかかります。焼却場の熱を利用することでコストを抑えることができました。

私は、このようなみんなが利用できる温水プールを彦根市につくることを提案します。

○第3グループ議長（和田直也さん） 教育部長。

○教育部長（安居庄二さん） 林さんが言われるように、近くにプールがあると水泳に親しむことができ、体力づくりや競技力向上につながると思います。また、省エネルギーや地球温暖化防止などの観点から、ごみを焼却する際に発生する熱エネルギーを利用しての発電や余熱で沸かした温水をプールなどで利用される例があります。しかし、今の彦根市清掃センターには熱エネルギーを電気や温水に変える設備がなく、ご提案いただいている焼却場の熱を利用することはできません。

スポーツをするための施設にはさまざまな種類がありますが、新たに施設を建てるためには土地や建設費が必要なほか、施設ができたとしても施設を維持していくための費用が多くかかります。そのため、将来の利用見込みなどを考えながら計画的に進めていく必要があります。現在、彦根市では新しい市民体育センターの整備を最優先で取り組んでいるため、温水プールを含めプールの建設は予定をいたしておりません。

このように、プールをつくることは難しいですが、私たちも3年後の東京オリンピック・パラリンピック、7年後の国民体育大会や全国障害者スポーツ大会等で1人でも多くの彦根市出身の選手に活躍していただきたいと願っていますので、今後ともスポーツをされる皆さんを応援していきたいと思っています。

○第3グループ議長（和田直也さん） 林さん。

〔24番（林 咲耶さん）登壇〕

○24番（林 咲耶さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（和田直也さん） 以上で全ての質問を終わります。

これで第10回彦根市子ども議会を閉会します。

皆様、お疲れさまでした。

午前11時27分閉会

会議録署名議員

| | | | |
|----------|---|---|-----|
| 第1グループ議長 | 林 | 咲 | 耶 |
| 第2グループ議長 | 吹 | 田 | 萌望愛 |
| 第3グループ議長 | 和 | 田 | 直也 |
| 議 | 員 | 鹿 | 乗杏樹 |
| 議 | 員 | 大 | 西花音 |
| 議 | 員 | 嶋 | 本美優 |
| 議 | 員 | 馬 | 場美月 |
| 議 | 員 | 林 | 風花 |
| 議 | 員 | 中 | 村悟 |